

郡市長、三期目の就任後初の、令和7年第三回定例会が10月8日に閉会しました。この定例会は決算年度(令和6年度)の質疑を行うものです。決算特別委員会は地方議会に設置される委員会の一つで、市の予算がどのように使われたか、その結果はどうだったかを詳しくチェックする役割を担っています。

いわば、自治体の家計簿を細かく確認するようなものです。決算特別委員会は、市民の皆さんの税金がどのように使われたかを確認し、その結果を市民に報告する重要な役割も担っています。

(質疑内容は中面に記載)

また、10月1日、宮城県沿岸部を中心に大雨となり、仙台市宮城野区付近ではレーダーによる解析で、午前11時半までの1時間で約100ミリの猛烈な雨が降ったとみられ、気象庁が記録的短時間大雨情報を発表しました。大雨による洪水の発生に備え、仙台市では仙台防災ハザードマップを作成しています。

ハザードマップでは、国や県から提供を受けた情報を基に、浸水のおそれのある区域(浸水想定区域)を浸水する深さに応じて色分けして示しています。歩行できる水の深さは50センチ程度とされていますので、避難を考える際の参考として頂きますようお願い致します。

公明党仙台市議団で必要性を求めていた、「耳で聴くハザードマップ」もスタートしました。

お手持ちのスマートフォンやタブレットを活用して、災害リスクや周辺の避難場所等の情報を画面や音声で確認できるサービスです。多言語にも対応しているため、外国からお越しの方やそれ以外の方にも便利なアプリです。(4面チラシ参照)



教育政策・地域活動など身近な課題に 焦点を当てる質疑。

令和7年度 第3回定例会 決算特別委員会質疑

9/24 決算特別委員会【市民費】

自治会活動支援について

【質問】

町内会は、地域の力となり、行政と一緒にまちを守っていく、市民を守っていくという方針で仙台市は進めている。一方、人口減少と高齢化による影響により、町内会等の地域住民の支え合いによる組織が弱体化し、地域コミュニティを維持することが難しくなっている現状がある中、私たちが

取り巻く社会環境が急激に変化する中、安全で安心して暮らせる地域を守る町内会などの地域コミュニティの役割は非常に重要である。

現状として、町内会数、加入率は5年前と比べてどうか。

【答弁】

令和2年度は1,384町内会、加入率77.5%だったのに対し、令和7年度(6月現在)は1,370町内会、加入率71.2%となっている。

【質問】

市民活動補償制度の制度概要と補償内容について。利用状況はどうか。

【答弁】

補償金の給付対象となる事故は、市民活動中のケガなどの「傷害事故」と、市民活動中の過失により他人にケガをさせたり、他人の財物を壊したりといった「損害賠償責任事故」の2種類となっている。具体的な補償事例は、傷害事故では、地域のおまつりの準備・撤収作業中にケガを負った事例、損害賠償責任事故では、公園や道路の草刈り中に、誤って電動草刈り機で小石を弾き、他人の車や家のガラスを割ってしまった事例などある。

【質問】

懸念されるのが町内会役員。役員手当があるがために補償対象者に含まれていない。地域活動の中心者は役員。本市独自の支援策を講ずれば、担い手不足の一助になると考えるがどうか。

【答弁】

町内会をはじめとする地域の皆様との協働の推進に向けては、安心して市民活動に参加していただける環境整備が必要であるものと認識している。町内会役員も含め地域の皆様が必要な補償を受けられ、安心して活動に取り組むことができるよう、町内会活動に関係する所管局に対して、リスクに応じた保険に加入するなど、支援のあり方についての検討を促していく。

9/25 決算特別委員会【消防費】

消防団の担い手確保の現状と課題について

【質問】

決算年度を含め5年間の本市の消防団員数の推移について伺う。

【答弁】

4月1日現在で、令和2年度が1,942人、令和3年度が1,897人、令和4年度が1,872人、令和5年度が1,853人、そして決算年度である令和6年度が1,786人と減少傾向が続いている状況だ。

【質問】

他都市では学生の入団者が増加している地域もあるが、本市の現状はどうか。

【答弁】

本市においても大学や専門学校等に通う学生消防団員は、決算年度においては45名、今年度においては54名となっており、特に学生が多く居住する地域において増加傾向にある。学生消防団員については、その活動を認証し、社会貢献の証として就職活動の際などに活用していただく「学生消防団員活動認証制度」を開始した平成30年度以降において、入団が増加している状況だ。

【質問】

女性消防団員の推移について伺う。

【答弁】

本市では平成9年5月から女性団員の入団がはじまり、決算年度においては141名、今年度においては145名の女性団員が活躍されている。この中には、消防団のトップである団長や、分団をまとめる分団長といった消防団幹部もいらっしゃる。

【質問】

活動を行った際の分団からの消防署への報告について。団員は仕事やプライベートの時間を割いて活動に参加しており、業務の効率化は必須である。他都市ではタブレットを活用している事例もある。本市としても早急に導入するべきと考えるが伺う。

【答弁】

令和5年度に実施した全団員対象のアンケートにおいて、庶務を担当する方々から、報酬請求等の事務が負担だとのこと意見を頂戴している。それを踏まえ、今年度、スマートフォン等により報酬請求等が行える消防団アプリの導入を予定している。

9/29 決算特別委員会【教育費】

仙台自分づくり教育推進について

【質問】

仙台版キャリア教育、仙台自分づくり教育の取り組みが進められている。小学校段階での「スチューデント

シティ」、中学校段階での「ファイナンスパークにおける学習」、さらには職場体験活動など、初歩的な職業教育を通じて社会の仕組みや勤労の基礎を身につけることが期待されている。

決算年度における実施状況・参加校および児童生徒数、参加された児童生徒からは、どのような声があったのか。

【答弁】

令和6年度小学生向け「スチューデントシティ」は仙台市立の小学校全118校と私立学校2校を含めた計120校で実施。8,400名を超える児童が参加した。中学生向けの「ファイナンスパーク」は仙台市立の64校と、私立学校4校、県立学校1校で実施。7,800名を超える生徒が活動した。

それぞれ、「協力することの大切さ」「両親をはじめとする、働く方々への感謝」「お金の使い方が分かった」などの声があった。

【質問】

来年度から「ファイナンスパーク」を「学校訪問型」に移行することのことがだが、これまでのボランティアの今後の活躍の場の確保は本市としてどのように補償されるのか。

【答弁】

お住いの地域の学校で実施するファイナンスパーク活動でのご協力をお願いします。登録ボランティアについては、子ども体験プラザ(アエル8階)におけるファイナンスパークのボランティアはなくなるが、スチューデントシティの学校ボランティアが集まらなかったときや、御自身がお住いの地域の学校がファイナンスパークを行う際に、可能な範囲で御協力いただきたいと考えている。

インクルーシブ推進教諭について

【質問】

教職員等へのインクルーシブ教育理解のための教育・研修等の対応について伺う。

【答弁】合同校長会、教員全員が受講する年次研修や管理職研修、特別支援教育を行っている。

コーディネーターの養成研修等において、経験年数や

職責に合わせ、インクルーシブ教育に関連する内容を周知している。交流及び共同学習がほぼすべての学校で実施されていることや、心のバリアフリー推進事業への申込みが年々増加していることなどからも、学校現場や教職員の理解が進んできているものと考えている。今後、好事例の情報把握やその共有にも努め、インクルーシブ教育の理解促進に取り組んでいく。

【質問】

障がいの有無に関わらず、教室にいる全ての子供たちが教育的支援を受けられるようにするのが、本来あるべきインクルーシブ教育だと考える。

小学校低学年で通常学級で学ぶ配慮が必要な子どもさんの保護者の方から、合理的配慮について、また子どもの勉強の遅れを心配する趣旨の相談を受けた。インクルーシブ教育が進められる中で、本市では通常学級で学んでいる配慮を必要とする児童・生徒に対する合理的配慮はどのように進められているのか。

【答弁】

通級による指導の実施、指導補助員や介助員の配置、デジタル教科書の利用、補聴器などに音声を送信することができるワイヤレスマイクの利用、視覚的に確認できるようにするICT機器の活用など対応を工夫している。インクルーシブ推進教諭の配置、特別支援教育コーディネーターの複数指名など、個々に応じた合理的配慮について、より丁寧に対応できる体制の整備にも努めている。

【質問】

所管は特別支援教育課となっているが、名称をインクルーシブ教育課とかインクルーシブ教育支援課等に変更すべきと考えるがどうか。

【答弁】

課の名称は法令上の用語に沿ったもので保護者や学校現場に支援内容が的確に伝わるといった面もある。課名変更にあたっては、国の法令の動きやインクルーシブ教育に対する社会的な共通理解の状況などを見極めていく必要がある。引き続き児童生徒一人ひとりの思いを尊重し、個々の教育的ニーズに応じた細やかな支援に努めた教育を推進していく。

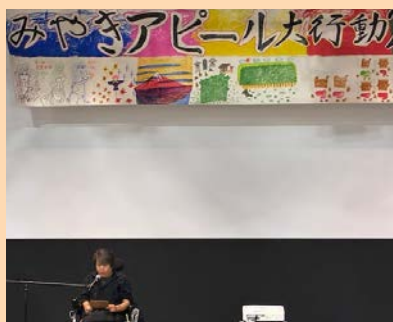
NPO法人全国ギャンブル依存症家族の会 セミナーに参加 (9月6日)



NPO法人全国ギャンブル依存症家族の会 第8回総会記念セミナーに来賓として参加。当事者・家族の会の体験談後、ギャンブル依存症問題を考える会代表の田中紀子氏からは、当事者が借金した場合、家族が負担する必要はなく、多額の引き落としなどあった場合、金融機関等にもギャンブル依存症について啓発することも大事と。力強い講演でした。



宮城野区消防団特別点検に参加(9月6日)
郡市長出席のもと、宮城野区消防団特別点検に参加。
総員320名中258名の団員が部隊訓練、小型ポンプ訓練を披露。暑い中、本当にありがとうございました。



みやぎアピール大行動2025に参加
(9月23日)
メインは様々な障がいやLGBTQの方々によるリレートーク。
更なる共生社会にむけ、取り組んでまいります。

目の不自由な方も、外国からお越しの方も

聴いてわかる！

あなたのまわりの**災害リスク**

— すぐに、誰でも、簡単に —

スマートフォンアプリ Uni-Voice Blind 「**耳で聴くハザードマップ**」

現在地とその周辺の

洪水・土砂災害・津波
の危険がある場所や対応する
避難場所を

音声と画面表示
によりお知らせします

情報を
まとめて
確認できて
便利！

操作も
カンタン！

無料で使える！

多言語に対応！

日本語・英語・中国語簡体字・
中国語繁体字・韓国語・
ベトナム語・ネパール語

インストールはこちらから

音声コード Uni-Voice

「Uni-Voice Blind」アプリで
読み取ると、この資料の内容を
音声で聴くことができます。

発行元

仙台市議会公明党市議団 仙台市議会議員佐々木まゆみ
仙台市宮城野区幸町3-3-1 TEL022-707-7462 メールアドレス sasaki@sendai-komei.jp

プロフィール

仙台市議会議員 4期目。健康福祉委員会 委員。防災環境都市調査特別委員会 委員長。

耳で聴くハザードマップ



Facebook

日々の活動は
フェイスブックを御覧ください。